

2018年 2月4日[日] - 2月12日[月祝]

10:00-18:00[金・土・曜日は20時まで] | 観覧無料

会場 || 千葉市美術館1階 さや堂ホール

主催 || 千葉市美術館 | 協力 || Sonilab | 宝塚大学 |
Nao Yonamine | NO ARCHITECTS | night cruising

遺

さや堂ホール 展示プログラム
林 勇氣

× SijQ

取り

さや堂ナイトプログラム
「林 勇氣 × SijQ」ライブパフォーマンス
2月3日[土] 17:00-19:00
大人1,500円 / 大学生1,000円 / 高校生以下500円
※「小沢剛 不完全——パラレルな美術史」観覧チケット有料をお持ちの方は200円割引

▶ <https://yaritori.site>

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

さや堂ナイトプログラム

林 勇氣 × SijQ ライブパフォーマンス

2018年2月3日[土] | 17:00-19:00

料金 || 大人1,500円 / 大学生1,000円 / 高校生以下500円

※「小沢剛 不完全——パラレルな美術史」観覧チケット[有料]をお持ちの方は200円割引

円柱が立ち並ぶネオ・ルネサンス様式の銀行建築を利用したホールで、
展覧会「遣り取りの行方」の起点となる、映像と音楽が共鳴する即興パフォーマンスを開催します。
ここでの内容がその後9日間の展示で進化・展開されていきます。

併設のマーケットスペースで美味しいフードやドリンクを片手に、楽しい空間をお過ごしください。

[出店情報や詳細は千葉市美術館ホームページで公開します]

タイムスケジュール

16:30 - 開場

17:00-17:45 [ライブパフォーマンス1]

映像と生演奏でゆるやかに生態系が創世され駆動しはじめます。

18:15-18:35 [ライブパフォーマンス2]

生まれてきた生態系と演奏者が遣り取りし、即興的な映像と音響のパフォーマンスが引き起こされます。

ご予約方法

ホームページより必要事項をご記入の上、お申込みください。確認メールの返信をもってご予約完了となります。

※迷惑メールなどの受信を制限する設定をされている方は、ご応募の前に@ccma-net.jpドメインのメールを受信できるようご設定ください。

※事前予約をいただいた方にはオリジナル缶バッジをプレゼントいたします。

主催 || 千葉市美術館 | 協力 || Sonilab | 宝塚大学 | Nao Yonamine | NO ARCHITECTS | night cruising

同時開催

企画展「小沢剛 不完全——パラレルな美術史」

会場 || 千葉市美術館8,7階 | 観覧料 || 一般1,200円 / 大学生700円 | 休館日 || 2月5日

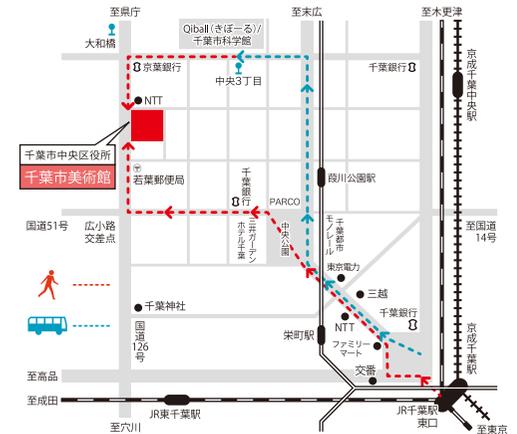
お問い合わせ

千葉市美術館 | 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel.043-221-2311(代) | <http://www.ccma-net.jp>

交通案内

■JR千葉駅東口より | ▶徒歩約15分 | ▶バスのりは7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分 | ▶バスのりは16番C-busにて「中央区役所・千葉市美術館前」下車 | ▶千葉都市モノレール県庁前方面行「菟川公園駅」下車徒歩約5分 | 京成千葉中央駅東口より | ▶徒歩約10分 | 東京方面から車では | ▶京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く ※千葉市中央区役所と同じ建物です。 ※地下に、区役所と共有の機械式駐車場がありますが、混雑時にはご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関でのご来館をお願いします。



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

遣り取りの行方

2月4日(日)ー2月12日(月)祝

10:00ー18:00(金土曜日は20時まで) 観覧無料

千葉市美術館1階「さや堂ホール」にて、林勇氣×S:JQによる展覧会を開催。映像と音楽が融合したインスタレーション作品を発表します。

ネットワーク上にアップされた画像や音は誰かと共有されたり、端末に保存するなどして使用されています。また、その中で誰からも忘れ去られ、存在しているデータもあるでしょう。

プログラムの目によってそれら画像を認識し、人工生命体として生成し、撮影者の意図を越え動き、声をだし、遣り取りをはじめ、生態系をつくりだします。

一連の流れは現実世界にも相互に影響を与えます。人工生命体の音と、現実の音が遣り取りをはじめること、常に変容していく地図のような音楽と画像が姿を表します。

それらは日々アップロードし共有、コピー、インデックス化され、時には人の現実社会と相互に大きな影響を与えあいながら跡形もなく消去される無数のデータ

の新陳代謝が行われる様子を可視化・音響化しています。

アーティストトーク

2月12日(月)祝 14:00ー

会場にて本展の出版作家の林勇氣、S:JQにより本展の解説等を行います。またワークショップ形式で映像と音のインスタレーションを使用した鑑賞の体験をして頂きます。

写真募集

2月3日(土)ー2月12日(月)祝まで

twitterを利用し、スマートフォンの写真を使って作品に参加して頂けます。詳しくは次のホームページを参照してください。

▶ <https://yaritori.site>



SjQ++ [arc] 2013年 あいちトリエンナーレ2013でのパフォーマンス



林勇氣 [another world—eternal] 2016年 京都芸術センターでの展示風景 撮影||表恒匡



林勇氣 | Hayashi Yuki

映像作家。1977年より映像作品の制作を始める。自身で撮影した膨大な量の写真をコンピュータに取り込み、切り抜き重ね合わせることで映像を作る。その制作のプロセスと映像イメージは、デジタルメディアやインターネットを介しておこなわれる現代的なコミュニケーションや記録のあり方を想起させる。主な展覧会に、2011年個展「あなただけbeing / something」(兵庫県立美術館)、「[HUMAN FRAMES]」(Kunst im Tunnel、ドイツ、Substation、ドイツ)、「2014年」窓の外、恋の旅ー風景と表現」(富屋市立美術館/兵庫)、2015年「イカワ国際映画祭」(札幌)、2016年 個展「電源を切ると何もみえなくなる事」(京都芸術センター)、2017年「彼方」(静岡市美術館)、「未来への狼火」(太田市美術館 図書館/群馬)など。

<http://kanyukuyuka.rumblr.com>

SJQ

魚住勇太(アノ)、米子匡司(トロネー)、ナカガイトイサオ(ギター)、アサダワタル(ドラム)、大谷シウヘイ(ベース)によるプロジェクト。ループを用いず、二つの音と音がドミノのように連鎖反応させることで、音楽が生まれ、展開する。演奏はコンピュータなどで生演奏をリアルタイムで音響処理を行うライブエレクトロニクスという手法で行われる。近年は音楽を軸としながら、現代アート/クラフ/電子音楽など、領域を横断する活動を展開。2013年、映像(S:ezardrix&メンバー)に加えたプロジェクト[SJQ+]がメディアアートの世界的な賞である「アルス・エレクトロニカ2013」において、Award of distinction 受賞(デジタルメディア部門)。国際的な注目を集める。

<http://sjq.jp>

